

「ニュースにチャレンジャー教えて先生」2010年6月26日(土)日本経済新聞、日経プラス刊を読む

1. 石油はわれわれの生活のどのような分野で役に立っているのか一度調べてみよう。石油はカサやペットボトル、ボールペンをはじめ生活のすみずみにまで原料として使われている。
2. 一体どのくらいの量を使っているかも調べてみよう。日本人は一人平均にすると1.8ℓのびん(一升びん)で、1年間に1000本以上、アメリカ人は2000本以上使っているようだ。
日本はどこから輸入しているのかも調べてみよう。アラブ首長国連邦、サウジアラビア、イラン、カタール、クエート、インドネシア、オマーンなどなど。
3. 十数年前にオマーンの首都のマスカットから500km以上離れた日本企業の石油採掘現場に、ジープに乗り砂漠の屋気楼を何回も見ながら行ったことがある。
日本人技術者も現地の人々と協力しながら大変な思いをして日本に石油を供給してくれているのだ。砂漠の中や海上で炎天下、高温の中で石油を掘る作業をする人々の様子を想像してみよう。
4. 海賊(かいぞく)が出没する中、石油が日本に到着するまでどのような国々や大洋、海、海峡を通ってくるのか、タンカーの船員さんになったつもりで考えてみよう。
5. 日本に到着した原油が、どのように精製・加工され、ガソリンをはじめとする石油製品になっていくのかも調べてみよう。石油がない生活も考えてみよう。
6. 20世紀の戦争の多くは石油をめぐる争奪戦であったという考えもある。太平洋戦争や、湾岸戦争などもなぜ発生したかを調べてみよう。
7. 石油産出国の多くがイスラム教の国々である。これらの国々とどう仲良くしていくかも考えよう。
8. 地球温暖化の原因も石油と言われる。効果的な石油の使い方考えることが大事だ。
9. 石油は限りある資源と言われる。石油に代わるエネルギー源としてどのようなものが考えられているか調べてみよう。
10. 石油の歴史を知ることは、人類の生活や経済、紛争や戦争、歴史を知ることにもつながる。9.11テロも石油が原因の1つかもしれない。
11. 日本だけでなく人類の未来を考えるために、石油とどのように向き合ったらよいか、ゆっくりと考えてみよう。

以上